

### 3 クマのスギ剥皮被害防止試験（第4報）

予算区分： 国 補  
担当科名： 育種科

研究期間：平成11～14年度  
担当者名：八神徳彦  
江崎功二郎

#### ．目的

ツキノワグマによるスギ等への剥皮被害を軽減させるため、被害状況の把握と防護ネットの防護効果を検討する。

#### ．試験内容

##### 1．被害状況調査

加害クマが特定できた被害地の状況を精査し、クマが剥皮に到った原因を考察した。

##### 2．防護試験

激害地およびその周辺林分で防護ネットの効果を調べた。

#### ．試験結果

##### 1．被害状況調査

スギ造林地で越冬出産した雌グマにより、巣穴周辺のスギが集中的に剥皮されていた。雌グマは当歳仔を2頭連れており、仔を守るため他のクマが少ない餌の乏しいスギ林で出産仔育てをしたと推測された。仔は二春を母グマと過ごし、この間にスギを食べることを学習し、加害グマの増殖につながると考えられた。

##### 2．防護試験

防護ネットを巻き3年目には、対照木の11%が剥皮されたが、ネットを巻いたものの被害は1%にすぎなかった。2001年と2002年に防護ネットを合計30.2haに8,600本巻いたところ、多くの施工地では施工当年の剥皮は見られなかった。しかし、2年目になると施工地周辺の林分で剥皮が見られた。

#### ．考察および今後の課題

クマ剥ぎを軽減するには、的確な加害クマの駆除が必要である。また、防護ネットの長期の効果を確認するとともに、剥皮被害とクマの生態的な関連を調査していくことが必要である。